

皮かわこそする方は、右みぎの長芋ながいもの内うちにて、長芋ながいも一尺

ほどのかさに、うき粉うきこな二十五匁もんめ、砂糖さとう二十匁もんめ

ほどを入れて煉ねりてつくるべし

○末廣竹まひろたけの子この拵しらへ方かた

竹たけの子この、皮かわをむきて、湯ゆ煮によくして、穂ほさき

の方ほうばかりを、二ふたつ切きりたてに切きり、細こまさ方ほうを

前まへにして廣ひろき方ほうを向むかひにして、きりかけては、切きり

て、あとにてつらして、末廣まひろの如ごとくして（此この仕し

方かたは易やすきことなれば色いろ々にしてさとるべし）鍋なべ

に入いれ、砂糖さとう、みりん酒しゆ、酢すを合あせて、水みず少すくし

加くへて、鍋なべに入いれ炭火すみびにかけ煮にるべし

○砂糖さとう十匁もんめ、みりん二勺しよく五匁もんめ、酢す三勺しよく、水みず二勺しよく

五ご夕せきたけのこ、一本ほんのほさきだけの割わにてよ

し

お正月と子供の教育

東　基　吉

お正月しやうげつがきたといつて、別段べつだん違ちがつたことはない筈はず

ではあります、兎うに角正月かくしやうげつは物ものの新あららしくなる

時ときとして、子供等こどもらまでが、其その様に信しんじて居ゐるので

ありますから、お正月しやうげつといふ月つきは子供こどもの教育けういくにも、

大層たいそうよい機会きかいを興おこへてくれるのであります。

「太郎たろうさんは今年ことしからもう學校がっこうへ行く様ようになるの

だから、このお正月しやうげつからは、朝寢坊あさねぼうをやめて、吃ま

度七時とせじには起おきる様にようしますね」と元日げんじつ早々ささに言

つて聞きかせて置おくと、確たしかに太郎たろうさんは其その積つりにな

つて、七時しちじに起おくと、去年いんまでの様ように床とこの中なかでぐ

づんぐいはなくなる。

「このお正月しやうげつで、年としが一つふえたのだから、坊ぼうは

きつくなる、朝起あさおきる時ときには、もう去年いんまでの様よう

に「衣物をあぶつてくれなくちや」などはいはな  
いのだよ」といへば、夫れで以て今迄の衣物をあ  
ぶつて着せた習慣も取つて仕舞ふことが出来ませ  
う。

子供を教育する上に、改めてやりたいとは思ひな  
がら、今迄改めさせる事の出来なかつた悪い習慣  
は、お正月といつて、子供ながらに萬事新になる  
と考へるその觀念を利用して斷然改めさせる様  
にしたいと思ひます。

夫と同時に、吾々に取つても、子供の教育に付き  
て、したいとか、已めたいとか思つて居て、實行の  
出来なかつた事を決行する機會だと思はれます。

### 子供の玩具

一度に澤山やるのがよいか、少しづつ、與へるのが

よいかと申すと、新しいものは一度に澤山やら  
ないで一品づゝの方が勿論宜うございます。そし  
て夫が厭いた時分に又一つといふ風にしません  
と、一度に澤山やれば、子供ながらにわれこれと  
迷つて仕舞つて、どれをも十分弄ばないでこは  
してしまいます。そして、舊いのく〜とだんく〜  
玩具箱にたまつてきます、子供は其中で一番氣に  
入つたものを取り出して弄びます。

精巧で従つて代價の高いものは、子供に必要があ  
りませぬ、こんな品は金のある人が、子供を可愛  
がる自分の心を満足させる丈けに適當したもので、  
子供に取つては何の見分もつきませぬ、子供  
の方からいふと、粗末でも珍らしいのを何度も頂  
く方が、無論よいのです。

武力細工の電車は、宅の子供が、何よりか一番に